



令和7年7月11日（金）岐阜県発表資料		
担当課・係	担当者	電話番号
岐阜かがみがはら航空宇宙博物館指定管理者 （公財）岐阜かがみがはら航空宇宙博物館 学芸課	柳瀬 安福	直通058-372-2271 F A X058-386-9912
航空宇宙産業課 企画連携係	伊藤 武邑	内線3766 直通058-272-8837 F A X058-278-2653
各務原市 観光交流課観光振興係	野田 林	直通058-383-9926 F A X058-389-0765

そらはく
空宙博令和7年度企画展

『初飛行 40 周年記念企画展「飛鳥」』を開催します

岐阜かがみがはら航空宇宙博物館（愛称「空宙博」）では、低騒音STOL実験機「飛鳥」が昭和60年の初飛行から40年を迎えることを記念し、企画展「飛鳥」を開催します。

「飛鳥」は、このたび「重要航空遺産」の認定が決定した極めて貴重な機体です。是非この機会に空宙博へ来館し、企画展とともに貴重な実機をご覧ください。

記

1 開催期間

令和7年7月19日（土）～令和8年1月12日（月・祝）

2 企画展の概要

「飛鳥」は、短距離離着陸性能（STOL）と騒音を減らす技術を研究するために科学技術庁航空宇宙技術研究所（NAL）（現：宇宙航空研究開発機構（JAXA））が開発し、1機のみ製造された実験航空機です。

昭和60年10月28日の初飛行から平成元年3月のラストフライトまでの約3年半、航空自衛隊岐阜基地の岐阜飛行場（各務原市）を拠点に飛行試験を行い、「飛鳥」の開発と実験を通じて得られたデータは、その後の日本の航空機開発に貴重な知見をもたらしました。

本企画展では、常設展示中の「飛鳥」（実機）に加えて、計器や機材などの貴重な実物、関連資料を企画展開催期間限定で多数展示し、「飛鳥」が開発された背景や「飛鳥」に使用された当時の最新技術、その後の機体開発に与えた影響などを紹介します。

3 会 場

空宙博スペースボックス

4 料 金

入館料のみでご覧いただけます。

5 展示物の一例

①「飛鳥」命名色紙（実物）

低騒音 STOL 実験機の愛称が「飛鳥」に決定した際の色紙。

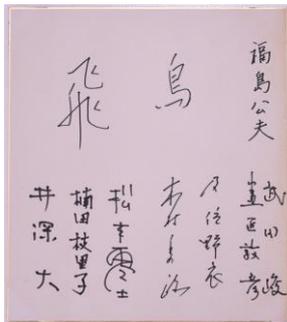
②航空ヘルメット、搭乗員服、ブーツ（実物）

「飛鳥」の操縦士等が搭乗する際に装着していた装備。

③センター・ペDESTAL（実物）

「飛鳥」の各種試験に使用されていたもの。操縦席の中央に置かれ、FPC レバー、スロットル・レバー等が装備されている。

①



②



③



上記の他にも「飛鳥」の周辺機器等を多数展示します。また空宙博1階「航空エリア」A3ゾーンにおいて、通常どおり「飛鳥」の実物をご覧いただくことができます。

6 関連イベント

「アンドリュウ先生のペーパークラフト」

紙飛行機作家・アンドリュウ先生のオリジナル紙飛行機「飛鳥」を作って飛ばそう。

【開催日】 8月11日（月・祝）

【時 間】 10:30～12:00、13:30～15:00

【定 員】 各回20人（要事前申込）

【料 金】 500円/機



その他、期間中には「飛鳥」の機内特別公開や講演会なども開催します。詳細は、今後空宙博ウェブサイトでお知らせします。

[申込方法]

空宙博ウェブサイト内「イベント申込」の、「空宙博予約サイト」(外部サイト)からお申込みください。

(空宙博ウェブサイト) <https://www.sorahaku.net>

そらはく

検索

7 その他

ミュージアムショップでは、「飛鳥」をデザインしたオリジナルTシャツやクリアファイル、図録等を販売。また、カフェでは「飛鳥」展コラボメニューを提供します。



8 報道機関向け内覧会

【日時】令和7年7月18日(金) 15:00~16:30

【場所】空宙博1階 ウェルカムルーム(受付)

※事前申込不要です。

※受付後、スペースボックスへ移動します。15:00までにお越しください。

【内容】学芸課職員が企画展の概要や見どころを解説します。

○低騒音 STOL^{*}実験機「飛鳥」について

科学技術庁航空宇宙技術研究所(NAL)が国家プロジェクトとして開発した低騒音短距離離着陸実験機(STOL実験機)。昭和60年10月28日に初飛行し、約3年半にわたって岐阜飛行場で飛行実験を行った。

飛行安定制御装置(SCAS)等のコンピュータ飛行制御の操縦系統への組み込み、耐熱複合材の一部使用、対音響疲労及び低騒音化対策等、その後の航空機開発に重要な役割を果たす新技術を飛行実験にて実証した。

役目を終えた後は空宙博で保存・展示されており、その歴史的文化的価値が高く評価された結果、令和7年10月には一般財団法人日本航空協会によって「重要航空遺産」に認定される。

※「STOL」:「Short Take Off and Landing」の略で、「短距離離着陸」を意味します。翼の形やエンジン配置の工夫によって、滑走路が短い場所や、山間部・離島のように広い空港が作れない地域でも、安全に飛行機を離着陸させるための技術です。

